

# ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30  
福島工業高等専門学校  
編集 図書委員会 ビブリア編集部  
平成12年2月16日

福島高専図書館報 第88号

## 巻 頭 言

読書と情報収集とは別ものである。私は毎日膨大な情報処理をしているが、そのほとんどが、明日の授業や学科運営のためである。長年このような生活を続けて来て、何か物足りなさを感じる今日この頃である。昔、何がしかの本を読んだ後に味わった、あの気怠い疲労感が懐かしい。同じ本を、二度三度読むこともしなくなつて久しい。

精神にとって、情報収集は、歩きながら食べるハンバーガーであり、時間をかけて楽しむフルコースディナーが読書に当たる。ハンバーガーは、取り敢えず空腹を満たしてくれるが、健康のためには疑問符が付く。食後の満ち足りた至福の時など望むべくもない。

情報は、「今」を生きるためには不可欠である。アメーバから人間まで、あらゆる生命体は常にその環境から情報を得、その瞬間毎に、意識するしないは別にして、自らの行動を決定する、条件反射の世界である。

ある種の生物は、しかし、経験から学習し、知識を蓄えることによって、過去の延長線上に少しばかりの未来を見る。情報処理の結果が知識となり、計画性と余裕が生まれる。

人間は、その余裕の中から知恵を汲み取る。知恵は人間の生に独特の味付けをする。知恵はある種の美意識を伴う。

最近、味のある人が減ったのは、現代人の精神活動が情報処理のレベルで止まっているためである。価値の多様化という、物分かりの良い「美」名のもとに、手っ取り早い肉体的・物質的欲望の満足がある種の価値と見定め、長い精神的葛藤を伴う「美」の探求を放棄した現代人の居直った姿がそこに見られる。

高専生は、釈迦・孔子より博識であり、科学者は、今や神をも凌ぐ全知全能ぶりである。しかし、我々が人生の知恵を学ぶのは相変わらず、キリストでありソクラテスである。聖徳太子が同時に8人の話を聞いたとて、情報収集能力では、インターネットを駆使する現代人にはかなわない。

しかし、聖徳太子は日本国家の基礎を確立した。インターネット・オタクが21世紀文明を開くとは思えない。

昔の偉人には潤沢にあつて、我々に欠けているのは何か。時間。考える時間。沈黙の時間である。遺唐使派遣を中止し、情報遮断をした平安後期に初めて国風文化が生まれた。

我々にも、情報を遮断し、蓄積された情報が静かに熟成するのを待ちつつ、じっと孤独に耐える、沈黙の時間が必要なのである。

<コミュニケーション情報学科教官 小林 伸吉>

## 目 次

巻頭言	1
感想文コンクール最優秀作品	2
卒業生による「私の推す一冊」	4
図書館便り	14
お知らせ	15

## 【感想文コンクール 最優秀作品】

「朝子 生命のかけ橋となって」  
(間澤洋一著、ポプラ社)を読んで

コミュニケーション情報学科2年  
北野澤 頼子

「あなたは、臓器を提供しますか。」もし、私がこの様な質問されたら何と答えているのだろうか。おそらく、何も言うことができず、黙り込んでしまおうと思う。1999年2月、日本は大きな転機を迎えた。国内初の臓器移植が行われたのである。

1997年10月16日に臓器移植法が施行されてから1年と数か月が経過、新しい医療が日本でスタートした歴史的新開けだった。脳死患者の臓器が全く別の患者の体内で機能する。今まで考えもつかなかったことが、今、実際に日本で行われている。その様子をテレビで見ていた私は、ただ驚くばかりだった。

この本の著者の娘である間澤朝子は、留学先のアメリカでドナー登録をした。その後、ホストファミリーのバイクで事故に遭い脳死状態になってしまったのだ。脳死とは、頭の機能が完全に回復不能になった状態である。日本にかけつけた彼女の家族は、本人の意志を尊重し、臓器提供を決意、彼女の臓器は6人のアメリカ人の命のかけ橋となったのである。「朝子は、いつも他人を助ける事を考えている子。オールウェイズ・ギブ・ギブ・ギブ……」このことから朝子の優しさが伝わってくる。

アメリカでは、すでに臓器移植が医療技術として確立しているといっても過言ではない。

しかし、日本は人々の意識や医師の経験など様々な点で格差が目立つ。さらに視野を広げて、世界的規模で考えてみると、宗教観や倫理観の違いによって臓器移植に対する考え方も様々である。

また、生と死の境界線は、いったいどこにあるのだろうか。今まで私達は、心臓が停止した間を「死」と考えてきた。だが、脳死の場合は、人工呼吸器の助けで呼吸をしている為、心臓は動いているのである。脳死を「死」と認

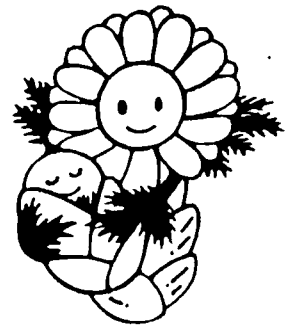
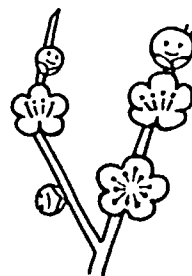
めることについては、日本で臓器移植が認められた現在も、賛否両論である。その理由の一つとして臓器移植を行うかどうかの承諾によって臓器移植が行われるかどうかを決定するといふことが挙げられる。

人間の「死」をどうとらえるか、それが最大の焦点である。私は考える。ただ、多くの命を救うことができないという観点から見れば、最良の手段ではないだろうか。

「人は一人ですべて生きていくのではない。」私は、この本を通して多くのことを学び、そして、考えることができた。人が死を迎えた時、その人の生きざまが見える。よく言われるが、「死」が「生」の集大成であると思う。

今も、朝子の両親が作った「朝子ポスト」には多くの手紙が届いてる。彼女の友人や恩師ははじめ、留学の先のアメリカでは知らない。彼女の紙も少なくはなない。彼女の手紙を改めると感じさせるエピソードがある。

17年間生きてきた私、たくさんの人々と出会い、たくさん助けられてきた。これからは、人生の中で、それをしていく。そして、自分もいつか提供したいと思う。今、実際にカドを待っているが、そこには何も書かれていない。まだ、きちんとした意志がある。もしも、それは机のひき出しの中にあるのかもしれない。





## 【卒業生による 「私の推す一冊」】

### 【機械工学科】

青田 晃一

「ジャングル少年ジャン 番外編 ドッキンバグバグアニマル」柴田亜美著  
ゲーム会社に取材に行ったネタを使って描かれたもので作者(社会の底辺)と編集とゲーム業界の人々との血を流す骨肉争いのある心温まる一冊です。

猪狩 毅

「IWAKI」  
いつもバイト先に置いてあるから、休憩中の15分暇な時はIWAKIを読みながら別にバイトを探しているわけじゃないのに、ついバイト欄を見てしまったり、友達が載るとうれしいうれしい、自分が載ってもうれしかったような……はつきり言うと、別にお薦めするほど面白くはないけど、僕はイワキ市民だし、多分みんな読んでるでしょ？

泉 義隆

「五体不満足」乙武洋匡著  
作者は五体満足で生まれてこなかったが現在早稲田大学の学生をやっている。両手足がない作者は身のまわりの事ができる手があるよりも、みんなとサッカーができる足が欲しいと言った。「五体不満足は不便だが不幸ではない」と言う作者の考えがすばらしい。

遠藤 剛

「ベルセルク」三浦健太郎著  
この作品は、異形の者、異世界をリアルに描き出し、迫力あるアクションを支える画力・構成力もすごいが、秀逸なのがキャラクターの心理描写。ある意味ありがちな魔物との対決の話が、この心理描写によって骨太になっている。

大橋 賢一

「空想科学読本1・2」柳田理化雄著  
変身、巨大化、超音速飛行機、光線、バリアー…、これら空想の世界での当り前の事を科学的にどこまで正しいのか？無理に実現しようとしたらどんな事が起こるのか？「ゴジラは生まれた瞬間即死する!？」等、爆笑と感動の書。

大原 幸司

「北斗の拳」原哲夫著  
一子相伝の暗殺拳、北斗神拳の伝承者ケンシロウはかつて継承者争いをしてきた長兄ラオウが暴君となっている事を知り、ほおあああたあという感じで胸に傷が7つである。わが人生にいつべんのくいなし!!である。

片野 雅之

「和田ラジヲのここにあります」  
和田ラジヲ著  
大人の笑いに誘い込む一品です。日常生活にある何気ないものに注目した4コマは、ささやかな一人笑いを与えてくれるでしょう。最近の4コマ漫画に不満のある方には是非、読んでいただきたい一品です。

勝沼 秀人

「鋼〜HAGANE」神崎正臣著  
この物語は、鋼という女子高生が「赤い海」という組織から何も知らずに宮本武蔵の遺伝子を植え付けられ、戦いに巻き込まれつつ、体内では宮本武蔵に蝕まれていくというものである。この他には世界中の有名人が出てきて、とても面白い。誰が出てくるかは見ろ!!

鎌田 清貴

「5+3-1」  
今、人気爆発中のM娘のデビュー前からF・A脱退に至るまでを書いた一冊です。特に「Never Forget」はF・Aの心境をそのまま書いた詞です。メンバーの中でも一押しなのはY・Mです。

喜多 賢一

「ヤングマシン」  
月に一度出ているバイクの雑誌で、他のバイク雑誌と比べて内容が充実しているし、最新情報も正確で早いと思う。

小松 努

「丸」  
陸、海、空の兵器が盛りだくさん。写真、読み物、充実。毎月発売中。

紺野 康史

「326 ナカムラミツル作品集」  
19(ジューク)の作詞も手がけるイラストレーター、326(ミツル)の作品集。彼の言葉は、すさんでしま

った僕の心に強烈に刺さった。でも、同時に僕にとっても「大切なもの」を教えてくれた。326の言葉を一つ紹介しておく。「人生はかけ算だ、どんなにチャンスがあっても、君がゼロなら意味がない。

坂本 道人

「カバチタレ」

モーニング連載中。ナニワ金融道が好きな人は是非読んでください。

佐藤 直樹

「熱伝達の基礎と演習」 荻三二著

熱伝達論について詳しく書いてあります。

佐藤 允

「機械設計製図便覧」

数学、力学、材料力学、機械材料…といった機械科にとって大切なことがたくさん書いてあるすごい本。5年間でこの一冊をマスターすればけっこうすごい。

城野 武史

「新エネルギー技術」 吉田宏、他著  
省エネルギーとかエネルギー問題などという言葉に興味を持っている方は是非読んでみてはどうだろうと思う一冊である。エネルギーの種類、利用方法などが述べられており、面白いと思う。

菅波 宏

「北斗の拳」 原哲夫著

一子相伝の暗殺拳、北斗神拳の伝承者ケンシロウはかつて継承者争いをした長兄ラオウが世紀末覇者拳王と名乗る暴君となっていることを知り、アタタ…アターお前はもう死んでいる、という感じである。とにかく非現実的でかっこいい。

鈴木 暢

「ショックサイエンス」

あすかあきお著

作者である飛鳥昭雄氏が世界の超常現象に挑むミステリアスでショッキングプラスアクションも盛り込まれている大作である。

高田 洋

「コサキン本タイトル集クスノ」

これは毎週水曜深夜1時～TBSラジオ

系列で放送中の「水曜UP's コサキンでワオ！」から生まれた本である。リスナーから寄せられた意味のないバカな本のタイトルなどをまとめた本である。

高橋 輝圭

「GIGS」

この雑誌は音楽雑誌である。初めてこの様な雑誌を読む人でも分かりやすく記してある。しかし記載されているバンドスコアは、あまり信用しない方がよいと思う。

高橋 佑輔

「俺のカラダの筋肉はどれをとっても機械だぜ」 野田努 & 電気グルーヴ著  
これはすごい！！卓球と瀧の出会いから人生を経て電気グルーヴに至るまでの軌跡を記したたDX本。今は脱退してしまっただまりんの入会秘話から卓球AV出演話、瀧が阪神の入団テストを受けた話など見所まんさい。これを見れば電気グルーヴのすべてが分かる。しかし、当然ながら廃刊。

田口 淳一

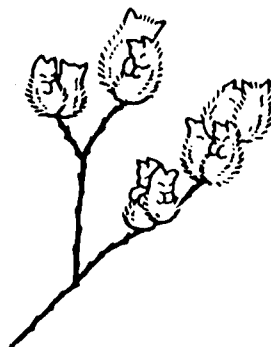
「HYPER REVシリーズ」

この本は、ある特定の車種（走り屋系、スタイルワゴン系）についてパーツやショップの情報、アドバイスなど詳しく紹介されている。これからのための車を買う人、夢見ている人、一見されたし。

橋本 正人

「超兄貴」 田丸浩史著

今はなき少年キャプテンで連載されていた。PCエンジンの大人気ゲームがオリジナル。暑苦しいまでの筋肉を見るダスイットとベソス溢れるジヨークが吹き荒れるダス同作者の重版「スペースアルプス伝説」も、そここのブックエースに売っているのだから皆よ走れ。



橋本 勝  
「河童が覗いた…シリーズ」

妹尾河童著  
見慣れているから見落とした物、近  
付けられないから見ることができなかつた  
もの、独特の視点を持つ舞台美術家の  
著者が世界中を歩き回って覗いたもの  
は？細密イラストによる全ページ手書  
きのルポ。中でも「河童が覗いたイン  
ド」はお薦めの良質インド本！

畠山 将幸  
「麻雀放浪記シリーズ」阿佐田哲也著  
この物語は、主人公の坊や哲が、い  
ろろな麻雀打ちと勝負していく小説  
です。麻雀独特の駆け引きや麻雀の心  
理描写を読んでいても面白いです。  
週刊少年マガジンの勝負師伝説哲也の  
中の手技も多数載っています。

水梨 謙  
「鉄道員」 浅田次郎著  
感動しました。

持地 浩行  
「へんなおじさん」 志村けん著  
ぜひ。

八嶋 誠律  
「冠婚葬祭マナー事典」  
成人式でもらった本。いつか役に立  
つであろう。

アザハリ・サニブ  
「Hiragana Times」  
この本では特に色々な日本・国際生  
活情報を得ることができる。色々な国  
からの人々の日本についてのそれぞれの  
意見や国の違いなどが述べられています。  
この雑誌は日本語と英語両方で  
書かれており、世界の声を得ながら、  
英語の実力も上がる。

【電気工学科】

石川 和典  
「はてしない物語」  
ミヒャエル・エンデ著／岩波書店  
ネバーエンディングストーリーで映  
画化されています。図書館にもありま  
すよ。

猪狩 雄太  
「星の歌 風の道」  
冨木忍著／富士見ファンタジア文庫

1、2、外伝と出ています。レシテ  
ィアがかわいいんだ、これが！

久保田 健司  
「防衛漫玉日記」  
桜玉吉著／アスペクト  
宇宙からの侵略者を退治して、おい  
しくいただく作者（うつ病）の日記。  
SF超大作？

酒井 幹夫  
「三毛猫ホームズの推理」  
赤川次郎著／角川書店  
誰でも楽しめる推理小説「三毛猫ホ  
ームズ」シリーズの一作目です。一作  
目だけは、二作目以降と登場人物が違  
っていたと思います。なので、このシ  
リーズを始めて読む方は一作目から読  
むことを薦めます。

斉藤 真也  
「パチンコ ニッポンVOL11」パチンコ  
必勝ガイド編集部編／白夜書房  
体感器、ゴト師、脱税、裏基盤、遠  
隔操作と、大金がからむからには話題  
のつきないパチンコ業界。この混沌と  
した業界を一般客、パチプロ、ホール  
関係者、メーカーとさまざまな視点か  
ら見つめる。あの有名まんが家、谷村  
ひとしまで登場するぞ！

佐藤 和彦  
「海猿」 佐藤秀峰著／小学館  
新人海上保安官の仙崎大輔を描く物  
語。

「ヤングキング OURS」  
少年画報社出版  
今、一番熱い雑誌です。

佐藤 行央  
「翼」 村山由佳著／集英社  
心に深い傷を持った女性と白人の血  
を引くネイティブの男性との心の交流  
を描いた作品。  
今まで読んだ本の中でダントツ一位の  
作品です。

「白い本」 二見書房  
その名の通り、中が真っ白な本。最  
高の宝物になるか、ただのゴミになる  
かは買った人の使い方次第。プレゼン  
トにどうぞ。

「ぼくを探しに」

「続ぼくを探しにビッグ・オーとの出会い」  
シルヴァスタイン著／講談社  
何でもない平凡な話の中に、「成長」というテーマが隠れている（と思う）本。  
絵本とはいえ、あなどれない一冊。

「ただのおじさん」  
ふくだすぐる著／岩崎書店  
上とは違い、見た目も中身も平凡な絵本。ほのほのとしたストーリーで、読んだ側も心が和む一冊です。

「ひねもす」  
撮影：高橋健司 & 林完次／光琳社  
一日の変化をテーマにして、空を撮影した写真集。心に雲がかかったときによく効きます。

田中 亘  
「技術と格闘した男 本田宗一郎」  
NHK取材班・NHK出版  
本田さんと会ってホンダと組めたことは僕にとってベストだった。自分の道を行くうえで本田さんの哲学は常に僕の”鑑”だった。----アイルトン・セナ。（本文より）  
日本人のものの作りの原点ここにあり。

新田 勉  
「酒とたたみいわしの日々」  
浜口及理子著  
ヨッパライものです。人間のクズぶり満載。

西山 和輝  
「冠婚葬祭マナー事典」  
遠藤周作監修／旺文社  
成人の日にいわき市からいただいた物。まだ読んでいないが今後必ず役に立つだろう。

「医者が末期ガン患者になってわかったこと」 岩田隆信著／角川文庫  
我が国屈指の脳外科医が自分の専門分野である悪性脳腫瘍におかされる。彼は即座に理解した。もう助かる見込みがないということを知ったとき、岩田さんが医師として生き、そして自らガンに冒されたことを知ったときに体験したこと、そして、感じ、訴えたいと思ったことに耳を傾けて欲しい。その言葉には、自分の生きる意味や生き甲斐を考える原点があるだろう。

二瓶 晃  
「ソニーの革命児」  
プレステを作ったソニーの人たちの活躍を書いた一冊。SCEIの設立、本部との対立、SEGAとの競争など彼らの熱意が伝わってきます。ものを作る仕事に就きたい人は読んで損なしです。

芳賀 和美  
「かぎりなくやさしい花々」  
星野富弘著／偕成社  
事故で首から下が動かなくなってしまった星野さんの生き様が書かれています。ぜひ読んでみてください。

樋口 真也  
「ドラゴンボール」 鳥山明著／集英社  
私はこれで高専に合格しました。

「いまを生きる」  
H・N・クラインバウム著／白石朗訳／新潮社  
自由について考えさせられました感動させてくれる本です。

堀川 淳  
「敷居の住人」  
志村貴子著／アスペクト  
独特の雰囲気や等身大な人物模様を丁寧な筆致で描いている。掲載している雑誌が休刊になりそうなので最終回が見られるかどうかだけが唯一の不安。

緑川 健志  
「死霊狩り」 平井和正著／アスペクト  
本文より「フォトセルから光のインパルスが人工神経繊維を通じて大脳へ」と、とても高専生向きの本です。

山崎 弘喜  
「北斗の拳」 武論尊・原哲夫著／集英社  
相手が泣き叫ぼうが情けをかけず、とどめを刺すケンシロウの悲しみをみたくて購入した。文庫では「ひでぶ」などの意味が明らかに……

「小説 上杉鷹山」  
童門冬二著／学陽書房  
米沢藩の藩主で心身障害者の妻をかぎりなくいたわり、その愛情を藩政全般に敷衍し、ケネディ大統領に「ウエスギ・ヨウザンは、私のもっとも尊敬する日本人だ。」と言わしめた男。

和田 健

「猿岩石日記」猿岩石著／日本テレビ  
日本テレビ系テレビ番組「進め、電  
波少年！」の企画で、当時新人お笑い  
タレントであった猿岩石がヒッチハイ  
クだけでユーラシア大陸を横断する  
という過酷な試練に挑んだ。この本は猿  
岩石の二人がこの旅の途中につづった  
日記で、旅をすすめる人と出会って  
うちに次第に変わっていく二人の心境  
がおもしろい。

「いつまでもとれない免許」

井田真木子著／集英社

作者が運転免許を取るため必死に自  
動車学校に通い、念願の免許をGET  
するまでの苦労話を書いたエッセイ。  
自動車学校で苦労した人は共感でき  
る一冊。

「電磁気学」スレーター・フランク著  
本格的な電磁気学を勉強したい電気  
工学科の4、5年生にお薦めの一冊。  
学校の図書館においてあります。

匿名希望

「コンピュータシステム基本テキスト」  
TAC情報処理技術者試験研究会  
TAC株式会社

日本情報処理開発協会中央教育研究  
所発行の「第二種共通カリキュラム」  
に完全準拠した形で編集されているた  
め、出題に対する網羅性という意味で  
はこれ一冊で十分！

第二種情報技術者を目指す人はぜひ  
参考にとしてみるとよいでしょう。

【工業化学科】

赤津 久美子

「夏至祭り」長野まゆみ著／河出書房  
とにかく、この人の本を読んでみて  
ください。世界観などを説明するのは  
とても難しいので、とにかく読んでみ  
てください。好き嫌いが分かれると思  
いますが。

氏家 光一

「スレイヤーズでりしゃす①～④」  
神坂一：作／あらいずみるい：イラスト  
富士見書房発行のドラゴンマガジン  
に連載されているスレイヤーズの角川  
ミニ文庫版。リナ・インバースという  
自称美少女天才魔道士が繰り広げるフ  
ァンタジー小説である。

基本はドラゴンマガジンに掲載され、  
スレイヤーズすべしやる（短編）とい  
う文庫版にまだ入っていないものが中  
心であるが、長編小説シリーズスレイ  
ヤーズにしか登場しないキャラクター  
も出てくるかもしれないという何でも  
ありの小説である。定価194円（税別）。  
ミニ文庫であるため自室の樹海に見失  
う可能性大。作者も以前見失ったら  
しい。

亀岡 繭

「十七歳だった！」

原田宗典著／集英社

自意識過剰なお年頃が面白おかしく  
書かれた著者のエッセイ。きつとみん  
なもわかるはず。．．！！

久米 梓美

「秘密の花園結社リスペクター」

松田洋子 著

もお、いろんな人&物をほめまくり。  
どんなに悪い人だって、ほめまくり。  
でも、けなしてんだか、ほめたんだか、  
よくわかんなくなってくるけど、とり  
あえずほめまくり。

とりあえず、今、1巻が出てるけど本  
屋じゃ立ち読みできないから、これが  
連載されてる「SPA!」でとりあえずど  
んなもんか読んでみて。でも、この雑  
誌もおやじ雑誌だから立ち読みしづら  
いかな…

佐久間 美幸

「風雲縛魔伝」

桑原水菜著／集英社コバルト文庫  
真田幸村の命を請け、神剣を再生する  
ため飛散した鬼神探しの旅をする二人  
の女の子。同作者の「蟹気楼」シリ  
ーズのようなことはありません。

佐山 幸代

「天国へ逝った満点パパ」  
故東八郎夫人 飛田裕子著

お笑いが好きな私はこの本を薦めま  
す。この本は喜劇役者東八郎氏の人生  
などが書かれています。たぶん若手芸  
人Take2の東貴博の父といえれば分かる人  
も多いでしょう。彼の芸人になったき  
っかけなども書かれている、結構いい  
本です。

鈴木 友美

「鳩笛草」

宮部みゆき著／



光文社(カッパノベルズ)

「朽ちてゆくまで」「燔祭」「鳩笛草」の三編が収録されている推理小説集です。超能力を持つ女性三人のお話で、ミステリーよりも普通の小説に近いストーリーです。ぜひ読んでみてください。

服部 直明

「ローマ人の物語」

塩野七生著／新潮社

日本人には馴染みの薄い古代ローマ人について書かれた本。特にお勧めはユリウス・カエサル(ジュリアス・シーザー)について書かれた4・5巻、読み出したらやめられない一冊です。

宮島 隆行

「燃えよ剣」司馬遼太郎著

これには完全にはまりました。そこで描かれている男のロマンや「滅びの美学」強烈でした。足の先から頭の先へと、力強い感動が満ちあふれてくるようでした。この作品は幕末の男のロマンを描いたもので、小説だからすべて事実ではないですが、当時の歴史、政治、人々の考え方などがよく伝わってきて司馬遼太郎の魅力がここにあると実感できる作品でした。

村山 英司

(1)「アストル・ピアソラ闘うタンゴ」

斎藤充正著／青土社

(2)「タンゴ～世紀を越えて」

岩岡吾郎編／音楽之友社

(3)「月刊ラティーナ」ラティーナ社  
(1)はタンゴの鬼才アストル・ピアソラの音楽と生涯について詳細に書かれた完璧かつ究極の本。ピアソラに興味をもった人にとってのバイブルである。先日著者に直接伺ったところ、続編が出るらしいとのこと。またこれを機にタンゴに興味を持ったら(2)を読むとよい。タンゴの歴史やアーティスト、名曲300選など、これからタンゴを楽しもうという人には最適の本。さらに(3)でタンゴのみならずラテンその他のワールドミュージックの最新情報が得られる。

しかし若いうちからここまではまり込むと周りから「ちょっと変わってるね。」と言われてしまうかも。

吉成 悦子

「鬼平犯科帳」

池波正太郎著／文春文庫など

火付盗賊改方長官「鬼平」こと長谷川平蔵宣以(のぶため)を中心として繰り広げられる人間味あふれる時代小説。

「仕掛人 藤枝梅安」講談社文庫

「剣客商売」新潮文庫

などもTVシリーズでおなじみ。他に、

「美しき殺人法100」

「美しき拷問の本」

桐生操著／角川ホラー文庫

「十二国記」

「魔性の子」

小野不由美著／講談社X文庫ホワ

イトハート、新潮文庫

「<卵王子>カイルロッドの苦難」

冴木忍著／富士見ファンタジア

文庫

「空の食欲魔人」など全作品

川原泉著／白泉社花とゆめコミ

ックス

とかも面白い。

渡邊 絵梨

「こいつら100%伝説」

岡田あーみん著／集英社

どんなに悲しいことがあっても、これを読めば笑いが止まらないはず…私の中の名作です。

渡辺 信也

「聖書」

クリスチャンが薦めるならやっぱりこの本。死ぬまでに1度は読んでみて。

【建設環境工学科】

安島 祥太

「白仏」辻仁成著／文芸春秋

フランスで賞を取ったということなんで読んだ。

「漂流教室」 椋岡かずお著／小学館  
おもろかった。

「岡本太郎作品集」 岡本太郎著

スッゲーなあと思うね、岡本太郎の作品は。



「これが僕です。」  
草薙剛 (SMAP) 著 / ワニブックス  
さすが SMAP って感じの衝撃的一冊。笑えた。キムタクは、カッコイイし、ゴローも気になる。ダッセー国だなあと思う。

磯上 幹夫  
「黒い家」  
貴志祐介著 / 角川ホラー文庫  
本当の恐怖が、此处に在る。

「魍魎の匣」  
京極夏彦著 / 角川ノベルス  
シリーズ中最も恐ろしく、最も危険な一冊。スプラッタが苦手な人にはきついです。向こうの世界にいつてしまいう恐れがあるので、読むときの精神状態にはくれぐれも注意が必要です。角川文庫でも出ています。

「風よ、万里を翔けよ」  
田中芳樹著 / 徳間ノベルス  
中国歴史小説の中でも特に読みやすい一冊。おもしろい。

「生と死の幻想」  
鈴木光司著 / 幻冬社文庫  
リングの原作者である鈴木光司の、ひじょうに文学的な一冊です。ホラーの色彩は全くありません。人生、考えさせられます。

岡田 卓也  
「深夜特急」 沢木耕太郎著  
おもしろい。

「ぼくらの7日間戦争」  
宗田理著 / 角川文庫  
「ぼくら」シリーズ一作目、社会背景を取り入れ、若者の視点で中高生に人気。著者、読者で白血病と闘う読者を勇気づけたり、夢を語り合ったりもした。

金井 洋平  
「踊る大捜査線」 君塚良一著  
読めばわかる。

小林 雅和  
「ドラッグ、マネー&ドリームスがラッパーを殺したのか？」  
小林雅明著 / 扶桑社  
麻薬が蔓延し暴力がはびこるストーリーで生まれ、アメリカの音楽シーンを

を一変させたラップミュージック。犯罪の温床と敵視されるなかで惨殺された伝説のラッパー、トゥパック・シャクール事件の背景に迫り、アメリカヒップホップ界の光と影を描いた作品。

「肉体のヌートピア」  
永瀬唯著 / 青弓社  
蒸気につづく電気の時代、目に見えない光線が支配する新しい時代、人は既存の身体イメージを解体し、新たな肉体の風景を描き出した。もう一つの別の歴史像が見える、機械、身体の近代史。

「ゲバラ日記」  
チェ＝ゲバラ著 / 角川文庫  
アルゼンチンに生まれ、放浪と文学を愛し、医学を志しながら、その生涯をゲリラ戦に捧げたチェ＝ゲバラ。革命というロマンを追い続け、厳しい条件にも苛まれながらも前に進み続けた男、その日記。

「宮沢賢治詩集」 宮沢賢治著 / 新潮文庫  
東北の片隅でたくさんの人達に語りかけていた。いつ読んでも心に語りかけてくる賢治イズム。そして読み手の心で生きようとする言葉達。歴史上の強者の詩集。

鈴木 雅久  
「関ヶ原連判状」 阿部龍太郎著 / 新潮社  
関ヶ原の戦いで徳川群にも、石田軍にも属さない第三勢力をつくろうとした話。興味のある人は読んでください。

田村 健太郎  
「ついでにとんちんかん」  
えんどコイチ著 / 集英社  
これはおもしろい。

田山 潤  
「別冊宝島101 地球環境・読本」  
JICC出版局  
別冊宝島は、現代の世界の出来事についての報告書とっていいだろう。この本は「地球を守る」という考えの世界の中、意図的に歪められ信じ込まされている常識を完膚なきまでに打ち破るコラム集だ。

藤田 大  
「龍馬がゆく」 司馬遼太郎著  
日本の夜明けぜよ。

渡辺 泰司

「痛快！コンピュータ学」  
坂村健著／集英社インターナショナル  
ビル・ゲイツも恐れている世界的コンピュータ学者・坂村健氏がコンピュータのブラックボックスをすべて解き明かした、世界に類のないユニークな本である。おもしろい作品なので損はしない。

【コミュニケーション情報学科】

五十嵐 陽子

「二十歳のころ」  
立花隆＋東京大学教養学部立花隆ゼミ／講談社

これは東京大学教養学部の学生達が著名人の方々にインタビューして作られた本です。坂本龍一から元オウム信者まで総勢67人が二十歳のころ、どいうことか？など赤裸々に綴られています。今、この年代で悩んでいるあなたにお届けします。経済的に余裕のない方にはこちらにどうぞ。

→<http://tron.um.u-tokyo.ac.jp/tachibana/hatachi/index.html>

永井 紀子

「さばくの女デイリー」  
クリス・デイリー著／武者圭子訳／草思社  
モデル兼特別国連大使として活躍している著者の半生が綴ってあります。かなりいい話。ぜひ、読んで欲しいです。

本郷 扶美子

「モリー先生との火曜日」  
ミッチ・アルボム著／NHK出版  
死の床についた老教授モリーが、昔の教え子ミッチーに語る「人生の意味」。人生観を考え直すヒントになる。

京谷 梨恵

「サンタの友達バージニア」  
村上ゆみ子著／東逸子：絵／偕成社  
「サンタはいるの？」と新聞社へ投書した少女バージニア。新聞社はその素朴な疑問を「社説」で回答した。感銘深い回答を得たバージニアのその後の人生は？季節を問わず読んで欲しい。自然に笑みがこぼれるような優しい本。

矢萩 千春

「十九、二十」 原田宗典著／新潮社  
父親、サラ金、恋人、エロ本…。20歳目前「宙ぶらりんの青春」の日々は夕さいコトばかりだ。全然美しくなくても、確かに、本当に輝くものを感じる青春小説。クサクない。

藤内 友里子

「ミラクル」 辻仁成著／新潮文庫  
辻さんは小説以外にも音楽をつくったりしているすごい人です。「ミラクル」はいろいろな作品の中でも、あたたかな文と絵でかかれた物語で、あなたを優しい気持ちにさせてくれる一冊です。

今江 佐知

「宙ノ名前」 林完次著／光琳社  
林さんは風景の入った天体写真を撮っている人で、本の中にも宙のきれいな写真もたくさんでてきます。天体の好きな人そうじゃない人でもきくと気に入ってもらえる本じゃないかなと思います。

鈴木 千代

「僕は模造人間」 島田雅彦著／新潮文庫  
自意識過剰な夢想的偽悪少年の話。全部読みきる人はそういないと思う。私の周りでは3人挫折しました。特に第5楽章からがつらすぎる。

遠藤 洋枝

「愛人」  
ワルグリット・デュラス著／河出書房  
女の子、ぜひ読んで下さい。デュラスの強さに、こんな恋愛もアリなんだって気付きます。でも、デュラスは狂ってます。ハマると抜け出せません。洋枝も狂ってます。

高木 さやか

「赤毛のアンシリーズ全10巻」  
ルーシー＝モンゴメリ著／  
村岡花子訳／出版各社  
一般に幸福なイメージを持たれがちなアンだが、実は結構苦勞している。1巻だけではわからないアンの人生の苦勞を全10巻で。きっとプラス思考の特訓になるはず。



西山 さつき

「アンナ・カレーニナ」  
トルストイ著／出版各社  
ロシア語を習い始めた時に出会った  
一冊。お昼のドラマが好きで、ロシア  
文化やロシア人の名前などを勉強した  
いい人にお薦め。トルストイは、「戦争  
と平和」だけじゃないですよ。

渡邊 雅子

「火車」(かしゅ)  
宮部みゆき著／新潮文庫  
これは、カードの自己破産から起き  
る事件の話で、私が最近読んだ本の中  
で一番印象に残っている。自己破産は  
誰にでも起こりうるということがか  
り、これから先を思い、いろいろ考え  
させられた。

今泉 雄二

「陸上競技マガジン」  
ベースボールマガジン社  
この雑誌は実は私の愛読誌です。こ  
れを読めば足が速くなるかと思っ  
たんですけど、実際そうじゃあ  
りませんでした。残念。ちなみに、この雑誌は学  
校の図書館にあります。  
あと根本(昌)研究室にも。

岩本 良子

「いちご同盟」三田誠広著／集英社文庫  
いい本です。読んで下さい。

鯨岡 玲子

「中吊り小説」  
吉本ばなな他著／新潮文庫  
電車の車内の中吊りに連載されて話  
題となった19編の<中吊り小説>が  
一冊になったもの。恋愛小説からコ  
ント、エッセイ、メルヘンまで、内容は  
盛りだくさん!どれも短編ばかり、し  
かもイラスト付きだから、とっても読  
みやすいよ。

柳下 知子

「ゲッベルス」平井正著／中央公論社  
ナチスの宣伝相だったヨーゼフ・ゲ  
ッベルスに関する本。ナチスに興味  
がある人より、メディアによる政治宣  
伝に興味がある人にお薦め。

笠井 麻波

「僕は勉強ができない」  
山田詠美著／新潮社  
いい顔をした人というのはさすがに

いいことを言う。その逆は必ずしも成  
り立たないのが残念なところだ。

伊藤 未咲

「空・海」森田米雄著／立風書房  
温暖化現象による水面上昇で2050年  
には完全に消滅してしまうといわれ  
ているモルジブ諸島の写真集。インド洋  
に浮かぶこの群島は強烈な太陽で照ら  
された透明感あふれるクリスタルブル  
ーの海で囲まれている。南太平洋のど  
の島を探しても見ることができない面  
白い砂浜はこの世のものとは思えな  
いほど美しい。

佐藤 拓

「6月の軌跡」増島みどり著  
サッカーの本です。

高木 美千代

「五体不満足」乙武洋匡著／講談社  
自分に手足がないのは、障害だと  
思わずにそれを身体的特徴だと思  
う人となんの変わりもなく生活し  
てきた作者。これを読んでいると彼  
の強さは本物であるということが伝  
わる。そして、この本を通して障  
害者に対してどう接すればいいの  
かを教えられる。

坂本 典子

「ハードボイルド／ハードラック」  
吉本ばなな著／ロッキング・オン  
ハードラックがお薦め。植物人間  
になってしまった姉をもつ女子大生  
の「死」に対する心の変化を描いて  
いる。自分に置き換えてみて、「当  
たり前のことを当たり前と思える  
幸せ」について考えた。無機質な  
奈良美智のさし絵もいい。

木立 亜紀

「娘たちのための狩と釣りの手引き」  
メリッサ・バンク著  
／ソニー・マガジンズ  
ジェーン(主人公)の物語が、理  
想の男を射止めるための七つの心得  
を伝えてくれる。恋愛に悩む女性  
のための1冊である。

阿部 絵季華

「シーラという子」  
「タイガーと呼ばれた子」  
トリイ・ハイデン著／入江真佐子  
訳／早川書房

この本は著者とシーラという女の子の人間関係を描いたノンフィクションの話である。シーラは母親に捨てられたことで心に障害を持つ女の子。シーラを担当したのが著者だった。この2人の過ごした時間が事細かに記してある。「タイガーと呼ばれた子」は続編で、成長したシーラと作者の関係が書かれている。読み始めると止まらなくなるくらいはまります。心理学に興味がある人だけではなく、いろんな人に読んでもらいたい。

渡邊 孝子

「JUSTA MAGAZINE」  
JUSTA MAGAZINE編集部／幻冬舎  
JUSTA RECORDが発信するカルチャー・マガジン。第3号まで発売中。不定期刊行。価格は高めですが、第2号にはアナログ盤、第3号にはCDが付いています。内容は第1号がスカバラツアーパンフ、第2号がSKA特集、第3号がDo It Yourself特集になっています。取り扱い店舗は全国の大型CDショップ(TOWER RECORDS、HMV等)や書店(青山ブックセンター、紀伊国屋書店等)にて。

丹野 久美子

「インターネット白書'99」  
日本インターネット協会編  
／インプレス  
日本のインターネット人口は、今年も約50%伸び、500万人を突破しました。この本の中では一年間の日本のインターネットの動きが多く、データと共に紹介されています。インターネットビジネスやインターネット犯罪など全188ページにわたってとても興味深いことが書いてあります。まあまあ面白いです。

村上 夏紀

「あの空は夏の中」  
銀色夏生著／角川文庫  
詩&写真集です。読むたびに解釈・感動が変わっていった一冊です。

長谷川 美那

「コスメティック」  
林真理子著／小学館  
化粧品業界で働く女性が主人公の本である。女性がかんばってキャリアを

つんでいく模様に自分もがんばろうと思わせられる。

石井 梨絵

「いつでも会える」  
菊田まりこ著／学研  
目をつむるとね、ミキちゃんにいつでも会えるんだー。1分で泣ける絵本。'99年ポローニャ児童賞特別賞受賞作品。

長谷川 由江

「風と共に去りぬ」  
マーガレット・ミッチェル著／新潮社  
もう50年以上も昔に書かれた小説で、社会も時代背景も全然違いますが、主人公スカーレットや周りの人間模様には不思議と共感できるものがあります。

坂本 真起子

「恋心の科学」  
松井豊著／サイエンス社  
人をスキになる気持ちから、失った恋のいやし方まで恋心について分かりやすく書かれています。恋に悩んでいる人に是非お勧めします。

村山 浩美

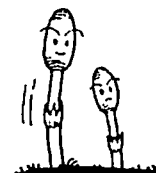
「小説ワンダフルライフ」  
是枝裕和著／ハヤカワ文庫  
天国に行く前に、人生の中から大切な思い出を1つ選んで、それを再現するお話です。同名の映画もあります。是非どうぞ。

松本 智明

「長くつ下のピッピ」  
アストリッド・リンドグレン著  
／出版各社  
みんな知っている作品だけれど、今もう1度読み返してみると、ピッピは自分にはマネできないくらいとっても素直に生きていてとても魅力的な女性だ。なにより、まず言動がかわいいで、ぜひ読んでみてください。

鈴木 元基

「星の王子様」  
サン＝テグジュペリ著／岩波書店  
素敵なお話。



## 図書館便り

☆学年学科別図書帯出冊数（平成11年4月～12月）

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合 計
機械工学科	29	353	448	189	266	1285
電気工学科	97	98	195	217	224	831
物質工学科	62	81	302	231		1096
工業化学科					420	
建設環境工学科	208	21	218	113	81	641
コミュニケーション情報学科	9	18	53	141	246	467
合 計	405	571	1216	891	1237	4320

☆図書貸し出し冊数ベスト10（平成11年4月～12月）

1	村山 英司	（工業化学科5年）	201冊
2	田中 美菜子	（建設環境工学科1年）	120冊
3	松橋 北斗	（機械工学科3年）	66冊
4	サイド ユッツァマン	（物質工学科3年）	63冊
4	折笠 雄樹	（建設環境工学科1年）	63冊
6	服部 直明	（工業化学科5年）	45冊
7	加澤 英子	（工業化学科5年）	42冊
8	渡部 寛之	（物質工学科3年）	38冊
9	丹野 拓海	（電気工学科2年）	37冊
10	吉田 一弘	（機械工学科3年）	35冊

☆ 平成11年度 感想文コンクール応募作品（◎ は最優秀作品 ○ は優秀作品）

- ◎ 「朝子 生命のかけはしとなって」（間澤洋一著、ポプラ社）を読んで  
コミュニケーション情報学科 2年 北野澤 頼子
- 「風水街都 香港」（川上稔・著／電撃文庫・刊）を読んで  
コミュニケーション情報学科 3年 高橋 康孝
- 「はてしない物語」（ミヒヤエル・エンデ著、岩波書店）の感想文  
物質工学科 4年 佐川 五月
- 「カモメに飛ぶことを教えた猫」（ルイス・セベルベダ著、河野万里子訳、白水社）を  
読んで  
建設環境工学科 4年 渡部 真規子
- ◎ 「The Book of Tea -茶の本-」の紹介  
コミュニケーション情報学科 4年 森田 千絵
- 「物理数学の直感的方法」（長沼 伸一郎著、通商産業研究社）の紹介  
工業化学科 5年 榎田 和洋

# お知らせ

## ★★学年末休業特別貸出について★★

下記のとおり実施します

特別貸出開始	・・・平成12年3月1日(水)
貸出限度冊数	・・・一人5冊まで
返却期限	・・・平成12年4月7日(金)

## ★★閉館のお知らせ★★

### 学年末休業期間中

平成12年3月10日(金)～平成12年4月5日(水)

は閉館いたします。

## ★★開館時間の延長について★★

- ◎平成11年9月から開館時間を次のように延長しています。
- ・試験1週間前から試験期間中・・・午後8時まで(最終日は午後5時まで)
  - ・その他の平日・・・午後6時まで

平成12年4月以降も継続する予定です。大いに利用して下さい。

## ★★その他★★

- ◎現在帯出している図書で引き続き必要な場合は、カウンターで継続手続きを行って下さい。  
また一人で長期間独占しないよう期日には必ず返却して下さい。

## ★★5年生全員へのお知らせ★★

帯出図書・卒業研究用帯出図書を  
2月18日(金)までに  
返却して下さい。

- ◎期日までに返却できない場合は、その旨を図書係に連絡して下さい。  
なお、連絡がないときは、保護者あるいは保証人に督促状を発送する予定です。



図書館長

